



(とりあえずの) あとがき

三部構成の中身を何はともあれひとつお披露出することができました。CONTRAIL プロジェクトの歴史は厚く深いので、書きたいこと、掘り下げたいことはもっとたくさんあります。しかも、こうしている間にもプロジェクトはどんどん前に進み、色々な新しい動きも起こっています。終わりはありません。しかし、DoCONTRAILとしては、ここがひとつの区切りですので、一旦「あとがき」を書いておきます。

あれは、私が CONTRAIL プロジェクトに関わり始めて3年近くたった2009年3月11日のことでした。プロジェクト自身も現在の枠組みになって3年経った頃です。思い起こせば、これが後に DoCONTRAIL として取り組む発端となったときでした。

CONTRAIL プロジェクトは、プロジェクトの直接の関係者と、専門知識を持つ有識者をメンバーとする委員会を作っていました。そして、毎年一回、年度末にその委員会の会合を開き、プロジェクトの状況と計画を議論することにしていました。第1回と第2回の会合では、私自身は報告と議論を聞いて全体像を把握するだけでした。しかし、3年目に入り、プロジェクトの内容への理解が進むとともに、日頃からプロジェクトが折々に直面する問題について報告や相談をしてもらう機会も増えてきました (DoCONTRAIL ではあえて触れていないような大きな困難もありました)。そういった経過があつての2009年3月の委員会でした。

プロジェクトの一年間の活動報告が終わったあとの質疑で、意を決して私は手を上げました。その年の委員会ではプロジェクトリーダーの町田さんが私の隣に座っていたのですが、私が手を上げた瞬間に町田さんが発した「おっ！」という小さなひとことが今も左耳に残っています。発言することは事前に決めていたわけではなく、会議中に私のなかで急に思い付いたことでした。私が手を上げることは町田さんにとって恐らく予想外のことだったでしょう。少し驚かせてしまったかもしれません。

マイクを受け取って私が話したのは次の言葉でした。「このプロジェクトの運営はとても見習うべき点が多いと感じています。特に異分野連携の他のプロジェクトにと

ってお手本になることが多いと思うので、ぜひきちんと記録にまとめていただけるとよいと思います。」

それまでも簡潔な事業報告は作られていました。委員会の資料も報告資料ですし、予算元の環境省に対しても所定の形式で報告書を毎年作って提出していました。しかし、そういった公式の文書とは別の、苦労談や裏話のようなものも含む「ナマの物語」こそ、知恵や工夫を伝えられるのではないかと考えました。私が言う「記録」とはそのような意味でした。研究企画調整という自分の任務から生まれた発想でもありました。他の研究プロジェクトを運営する人たちに実際に参考にしてもらいたいと考えていたのです。

ただ、その時点では、あくまでプロジェクトチームに対する単なる「ご提案」にすぎませんでした。私が発言した旨が後で議事録に一行載りましたが、それ以上に何か動くことはありませんでした。主語のない思い付きのような提案なので、今思えば当然のことです。

その後も CONTRAIL プロジェクトは困難をひとつずつ乗り越えていました。マニュアルにできるようなノウハウではないけど、このプロジェクトには他とは絶対に違う何かがある。この「魅力」は何なのか。掘り下げて他の人たちと共有しなければもったいない！・・・という気持ちがずっとありました。

そして、正確な時期は記憶にないのですが、あるときに「そうだ、自分が記録をまとめればいいじゃないか！」と思い付いたのです。ただ、本格的にそれをするには相当の時間と労力がかかることも分かっていたので、覚悟を決められずにいました。

その間、職場で私はいくつかの新しい企画を提案して立ち上げたりしました。研究企画調整という職種に携わる機会を与えていただいたからには、何か自分ならではの企画を形にしたい、という思いがありました。そして、5年目の2010年度になり、自分にできる企画はほぼ実現できたという安堵の一方で、ひとつだけ実現できていないことがありました。それが CONTRAIL プロジェクトの記録づくりだったのです。

これをやらなかったら後で悔いが残ると思い、とうとう



CONTRAIL をドキュメントする (DoCONTRAIL)



私は覚悟を決めました。私が記録をまとめてみたいと町田さんへ会って伝えたのは 2010 年 12 月 14 日のことでした(このときから DoCONTRAIL 用のノートを作り、メモを取るようになったので日付がのこっているのです)。

私の提案を聞いたときの町田さんの第一声も「おっ！」というものでした。でも、今回は前回よりもはるかに弾んだ「おっ！」の発声でした。「そういう案を思い付いた人はこれまでにない。ぜひやろう！」と大賛成してくれました。

年が明けて 2011 年になり、私はそれ以前よりもプロジェクトの動向に向けて強くアンテナを張り、情報を集め始めるようになりました。その年の夏にはプロジェクトの関係者に対して DoCONTRAIL を提案し、協力していただけたことになりました。この間、東日本大震災が発生し、プロジェクトにも少なからぬ影響がありました。その後もいろいろなことがあり、DoCONTRAIL の成果が形になるのにかなりの時間を要してしまいました。ひとえに私の実行力の鈍さによるものです。

この間に、CONTRAIL プロジェクトはいくつかの荣誉ある賞を受け、メディアにも取り上げられてきました。広報媒体にも何度も登場し、JAL の機内ビデオに町田リーダーが出演したりもしています。

世の中に CONTRAIL プロジェクトのことを知ってらもう、という観点から考えれば、もはや DoCONTRAIL の意義はほとんどない、という意見もあることでしょう。

でも、DoCONTRAIL のような形の記録にも価値があるという私の確信は揺らいでいません。特に、プロジェクトを動かすために心血を注いできた人たちの思いに焦点を当て、それらを集めるという点では DoCONTRAIL にしかできない役割があると考えています。

その観点から考えると、これまでの原稿は、学びのための途中段階にすぎません。これをもとに、新たな学びが生まれていくことを期待してやみません。

DoCONTRAIL について私自身には、心に描く夢があります。詳しくは、その夢が叶ったときにお話ししましょう。今は、CONTRAIL プロジェクトの飛躍を見上げつつ、この記録集もあと少し頑張っ、空高く羽ばたいてほしいと願っています。

DoCONTRAIL はただいま一旦着陸いたしました。この先さらなる目的地に向かって再びテイクオフする見込みです。引き続き、CONTRAIL プロジェクトともども、その軌跡を見守っていただきますよう、心からお願い申し上げます。ご協力ご声援いただいた皆様には、この機会に改めて感謝申し上げます。

2015 年 9 月

北村 健二